

**第23回 高砂市上下水道事業審議会
議事要旨**

| | |
|------|--|
| 開催日時 | 令和7年11月4日（火） 15時00分～17時00分 |
| 開催場所 | 高砂市役所 本庁舎4階405会議室 |
| 出席者 | 渡部副会長、山本委員、糸谷委員、松本委員、濱中委員 |
| 欠席者 | 山口会長、西牟田委員 |
| 議 事 | <p>1 開会</p> <p>2 上下水道事業管理者あいさつ</p> <p>3 委嘱状交付、各委員自己紹介</p> <p>4 高砂市上下水道事業審議会条例について</p> <p>5 協議事項</p> <p>（1）会長、副会長の選出について</p> <p>（2）第22回上下水道事業審議会の質問に対する回答について</p> <p>（3）水道事業・工業用水道事業・下水道事業経営戦略（案）について</p> <p>（4）その他</p> <p>6 閉会</p> |
| 資 料 | <p>（次第書）第23回高砂市上下水道事業審議会 会議次第</p> <p>（資料1）高砂市上下水道事業審議会条例</p> <p>（資料2）第22回高砂市上下水道事業審議会 資料の質問及び回答について</p> <p>（資料3）高砂市水道事業経営戦略（案）</p> <p>（資料4）高砂市工業用水道事業経営戦略（案）</p> <p>（資料5）高砂市下水道事業経営戦略（案）</p> <p>（委嘱状）高砂市上下水道事業審議会委員委嘱状</p> |

| 議事の経過 | |
|-------|--|
| 発言者 | 発言の要旨 |
| 事務局 | <p>1 開会</p> <p><本日の資料の確認></p> <p><本日の進行について説明></p> <p><議事経過及び写真撮影の許可、市のホームページへの掲載了承願い> → 承認</p> <p><事務局紹介><出席者紹介> <傍聴希望者の確認> → なし</p> |
| 管理者 | <p>2 上下水道事業管理者あいさつ</p> |
| 司会者 | <p>3 委嘱状交付・各委員自己紹介</p> |
| 司会者 | <p>4 協議事項</p> <p>それでは審議会を始めてまいりたいと思います。</p> |
| 副会長 | <p>(1) 会長・副会長の選出について</p> <p>会長に兵庫県立大学国際商経学部教授 山口委員、 副会長に明石工業高等専門学校都市システム工学科教授 渡部委員が委員からの推薦により選出され承認された。</p> |
| 上下水道部 | <p>(2) 第2回上下水道事業審議会の質問に対する回答について</p> <p>協議事項（2）について事務局から説明をお願いいたします。</p> <p><（2）第2回上下水道事業審議会の質問に対する回答について説明></p> |
| 副会長 | <p>事務局から説明がありました内容について、何かご意見、質問ありますか。 特にない様ですので次に進みます。</p> |
| 副会長 | <p>(3) 水道事業・工業用水道事業・下水道事業経営戦略（案）について</p> <p>協議事項（3）について事務局から説明をお願いいたします。</p> <p><（3）水道事業・工業用水道事業・下水道事業経営戦略（案）について説明></p> |
| 上下水道部 | <p>事務局から説明がありました内容について、何かご意見、質問ありますか。</p> |
| 副会長 | <p>水道料金を20%引き上げるというのは仮定で記載しているのですか。</p> |
| 上下水道部 | <p>高砂市水道事業経営戦略（案）の8ページに、投資財政計画の比較をしております。投資財政計画を計算すると、令和11年度に料金回収率が100%を下回る結果が出ておりますので、収支ギャップを解消するために水道料金を20%引</p> |

| | |
|-------|---|
| | き上げる必要があると考えています。 |
| 副会長 | 決定事項のように受け取られかねないため、想定や仮定と記載した方がいいのではないかでしょうか。今年度に20%引き上げるというのは決めきっておらず、今後の審議会で審議していくことになります。想定や仮定としておかなければ、誤解を招き、今年度に20%引き上げることが決定したかのように、誤った情報として認識されるのではないかと思います。 |
| 上下水道部 | 表紙に（案）と記載しておりますが、表記については誤解がないよう検討します。 |
| 副会長 | ロードマップについて、おそらく国土交通省から示すようにと指示があったと思うが、下水道にあって、水道にはなかったように思われます。この点についてはこういうものなのか。 |
| 上下水道部 | 下水道の交付金を受ける場合は、ロードマップが必要になってきますので、記載しております。ただし、水道の方は特段必要とされておりませんので、水道の方には記載しておりません。 |
| 上下水道部 | 先ほどの質問について、少し補足しておきます。この高砂市水道事業経営戦略（案）ですが、今後10年間の事業計画を作成し、まずは投資目標として、米田水源地の耐震化率を100%にする。期間中に基幹管路の耐震化率を25%にする目標としており、耐震化に高砂市水道事業経営戦略（案）9ページに示す事業費（132億円）を要する計画としております。また、収支計画についても、令和3年度からの現行の高砂市水道事業経営戦略（案）では、物価上昇、人件費の上昇を見込んでおらず、利率の返還はマイナス金利だったので、そこを見込んでおりませんでしたので、今回の経営戦略では、物価上昇、人件費の上昇についても見込んだところ、今回の期間中に赤字が発生する予測となっております。今のところ、令和17年までの高砂市水道事業経営戦略（案）において、令和12年に20%程度の料金改定が必要であるというところで想定させていただいている。しかし、計画上、そのあたりで料金改定の可能性が出てくるかというところで、当該年度になるのか、物価上昇がさらに厳しいものになり、もう少し早まるのか、こんな物価上昇ではなかなか経済が続かないということになればもう少し遅れるのか、20%についても、20%なのか15%なのか、もう少し上がるのかというところは、決算を見ながら、将来的に料金改定のところは検討していくかたちになっています。また、経営戦略自体、国から示されたひな形を参考に作成しているため、水道と下水道、若干中身が違うところがあるので、ご了承いただきたい。 |
| 委員 | 料金改定について、令和11年度に20%程度を案として考えている原因につ |

| | |
|-------|--|
| | いて、なぜ引き上げないといけないのか分かるように教えてください。 |
| 上下水道部 | <p>まず、値上げの大きな原因は、物価上昇や工事費の上昇があります。</p> <p>また、人件費も上昇しています。現行の経営戦略の策定時期は、令和2年になるので、その当時はそこまで物価が上がっておりませんでしたが、令和13年度には内部留保資金が尽きてしまうという予測でした。今回見直しをすることによって、2年程度前倒ししてしまった部分が、物価上昇の部分であると考えています。</p> |
| 委 員 | <p>物価上昇するから施設設備費の金額も増えるのですか。そして人口減で収入が減るという理解でよろしいですか。</p> |
| 上下水道部 | <p>そうです。実質的な費用が増えてしまいます。しかし、人口予測自体は若干減少の幅が緩やかになっておりますが、原単位自体は減少しているため、現行の経営戦略よりは少し収入を抑えることになると見えます。支出において物価上昇の幅が大きいこと、現在、米田水源地で工事しているものについて、起債を借りながら建てているが、予測より利率が上がっているため、影響が大きくなっていると考えます。</p> |
| 委 員 | <p>費用を抑えるために人的な配置の人数であるとか、DX化を利用して何とかしていこうという話ですか。</p> |
| 上下水道部 | <p>現行の経営戦略の6ページを見ていただくと、令和13年度に内部留保資金において資金不足が発生というかたちになっているのですが、高砂市水道事業経営戦略（案）8ページにおいて、料金回収率が令和11年度に100%を下回る様に前倒しになってしまっています。これが、人件費や物価上昇、利率が上がってきている影響になります。様々な要因を取り入れる中で、20%程度は引き上げないと令和17年度までは黒字にならないというところです。</p> |
| 委 員 | <p>施設設備について、全国平均並みにもっていこうとするなら、貯金がなくなっていくという理解でよろしいですか。</p> |
| 上下水道部 | <p>今、お示しさせていただいている高砂市水道事業経営戦略（案）の中で、まずは能登半島地震で管路はもちろんのこと、水を作る施設が被災してしまい、水源地から持っていくことができず、金沢から片道4時間ほどかけて、給水車で運ぶということがありました。そこでまずは、水を作る施設の耐震化をやっていこうということで、令和9年度までに100%耐震化できるように、工事を開始しています。あわせて、管路の耐震化ということで、現行の経営戦略の中では、令和12年度までに15%の耐震化率をもっていくという計画で、今の料金改定が30%となっています。今後、新たな部分については、計画期間の令和17年度ま</p> |

| | |
|-------|---|
| | すでに管路の耐震化率を25%までにもっていこうと試算を入れながら、経費の上昇を入れ、計算したものが今回の高砂市水道事業経営戦略（案）です。しかし、その中には、米田水源地をダウンサイ징することで経費を落とし、機器の更新の際には、高効率の機器を入れていくことによって、動力費を下げていくということも含めた上でこのような結果となっています。 |
| 委 員 | 管路の耐震化について、どのようにして耐震化するのですか。 |
| 上下水道部 | 古い管では、管と管をつないでいるところをボルトでがっちり止めて、地震がきても動かないようになっており、一定の力がかかることで折れるようになっていました。しかし、今の管は、管の継手部で動くようになっています。そこが動くことによって、多少地震で変異が起きても、壊れないようになっています。そのような新しい管に変えようとしています。 |
| 委 員 | 耐震化率とは、管そのものを耐震化するのではなく、結合部分を耐震化していくということですか。 |
| 上下水道部 | 老朽化にあわせて老朽化している管を入れ替えるときに、耐震性がある管に替えていくことによって、老朽化と耐震化が解消されるということになります。 |
| 副会長 | <その他、次回の予定などについて説明> これで本日の協議は全て終了しました。 |
| | 4 閉 会 |